（管理規則第3条実施要領 別紙様式）

2026 年度（令和 8 年度）学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番 19	福山市立熊野小学校
	最終更新日	2026(令和 8)年 10 月 1 日

Ⅰ 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ 中学校区

前年度学校運営協議会（学校関係者評価）の主な内容
・義務教育修了段階のこどもの姿を共有し、教育活動の充実を図る。 ・小規模校の特色を生かした教育活動を推進する。 ・学力向上に向けて、実態に応じた指導方法を工夫・改善に取り組んでほしい。

児童生徒の現状
・基礎学力の定着や学習習慣の確立に課題がある。 ・ふるさとに愛着をもつ児童生徒が多く、積極的に地域と関わる学習に取り組むことができる。 ・自分の考えを他者に伝える力が十分でなく、自己肯定感が低い児童生徒もいる。

育成する資質・能力	主体的に学び合う力
めざすこども像（義務教育修了時の姿）	自ら課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができるこども
中学校区として統一した取組等	・単元で『身に付けるスキル』を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組み、学力の定着・向上を図る。（学力向上部会） ・基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康なこどもたちの育成を図る。（生徒指導部会）

Ⅲ 自 校

学校教育目標
自分が好き　友達が好き　学校が好き

現 状
<児童生徒> ○児童アンケート 肯定的評価 ・授業を通してどんな力が付くか理解している　89% ・自分にはやろうと思ったことをやりきる力がある　98% <授業> ○令和７年度全国学力・学習状況調査（全国） 国語科…63.0%（66.8%）　算数科…59.0%（58.0%） ○福山市学力定着状況調査（全国） 【小４】国語科…71.3%（70.4%）　算数科…67.7%（65.7%） 【小５】国語科…68.8%（69.1%）　算数科…67.5%（61.0%） ○教職員アンケート ・研究授業や研修を通して新しい授業づくりに挑戦している　100%

育成する資質・能力		課題解決力	コミュニケーション力	粘り強さ
めざすこども像	低	身近な生活体験から、自分の課題に気付いている。	友達の話をうなずきながら聞き、自分の考えを最後まで伝えている。	自分でやると決めたことやみんなでやると決まったことを最後までやり通している。
	中	課題解決の場面において、自己の課題に適した改善策を考えている。	自分の考えと友達の考えを類似、相違の立場で比べて聞いている。	あきらめずに、挑戦している。
	高	自己課題解決への計画、実践、評価、改善を繰り返している。	友達の考えに質問やアドバイスをしたり、自分の考えを相手が納得できるように伝えたりして、互いに認め合っている。	自分で目標を立て、主体的に目標達成にむけて行動している。

研究	テーマ	こども自ら地域とつながり、地域に働きかける教育活動 ～「ふるさとキャリア教育」の推進を通して～
	内容等	・国語科・算数科を中心に、【レディネス→スキルを明確にした授業→身に付けたスキルの活用（他教科等・日常生活）】の流れをもった授業づくりを行う。 ・身に付けたスキルを生かし、「ふるさとキャリア教育」に取り組むことで、ふるさとを大切に思う気持ちを育んだり、社会に貢献しようとしたりする単元開発を行う。
めざす授業の姿		・単元で身に付くスキルを意識しながら学習している。 ・単元の予習・復習の必要性や、身に付けた単元のスキルを活用する場面を考え、探究する学びの質を高めている。

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
Ⅰ	主体的に学ぶこどもの育成	★	新規	基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る授業づくり。	単元を通して身に付けるスキルや単元計画を児童と共有しながら学習を進め、自分の考えを表現できる授業づくりを行う。	・国語科・算数科の単元末テストで思考・判断・表現の到達率40%未満の児童を20%以下にする。 ・児童アンケート①「自分の考えをもつことができた」②「自分の考えを表現できた」の肯定的評価を80%以上にする。	・1学期の国語科・算数科の単元末テストでは到達率40%未満の児童は3.2%だった。 ・考えを書く時間の確保や型、話型の提示を意識した指導を行った。アンケートの肯定的評価は、①95.0%②93.4%だった。	3	3	・児童が自分の考えをもち、その根拠を明確にしながら友達の考えと比較・関連付ける場を設定する。 ・ふりかえりの視点を全校で統一して示し、自分の学びをふりかえる場を継続して設定する。					
			新規	地域の魅力を学び、自らの生き方を考えることができる単元開発。	教材研究を中心とした研修を設定し、児童や教師の挑戦したいことを組み込んだ単元開発を行う。	・教職員アンケート「研究授業や研修を通して単元開発に取り組んでいる。」肯定的評価を80%以上にする。	・アンケートでは、100%が肯定評価だった。夏季休業中に、教材研究や単元計画を交流する研修を設定した。	3	3	・各学年の実践内容を交流する研修を設定し、今後の指導内容の改善を図る。					
Ⅰ	自己実現に向けて未来を切り拓くこどもの育成	★	継続	こどもが活躍できる場、こどもに任せる場を設定し、自己肯定感を高める。	行事や縦割り掃除などを通して、上級生を中心に児童主体の活動を取り入れていく。	・児童アンケート「自分にはやろうと思ったことをやりきる力がある。」肯定的評価85%以上	・児童アンケート「自分にはやろうと思ったことをやりきる力がある。」肯定的評価71.5% ・委員活動では、児童が中心となり取り組みを考え、実施することができている。 ・運動会では、異学年同士で感想を伝えあったり地域からのメッセージを受け付けたりした。	3	4	・発表会でも、異学年同士メッセージを送り合ったり、保護者から受け付けたりし、児童の達成感につなげる。 ・引き続き、委員会活動を中心に児童が考え、実施できる場を大切にする。					
			新規	校内美化や植栽活動を推進し、教育環境を整える。	外部講師などを活用しながら、正しい掃除の方法を身に付けられるように取り組む。	・児童アンケート「無言掃除をしている」肯定的評価85%以上	・児童アンケート「無言掃除をしている」肯定的評価98% ・外部講師を活用し、正しい掃除の方法を確認することができた。 ・無言掃除が児童に定着している。	3	3	・縦割り班で、無言掃除以外にも目標を定めて掃除に取り組んでいく。 ・掃除の振り返りを全学年がすることで、目標に対する意識づけを行う。					
Ⅰ	こども・保護者・地域に信頼される学校づくり	★	継続	こどもの姿を丁寧に見取りながら対応し、こどもが楽しく通える学校づくり。	全教職員で情報を共有し、関係者を中心に、組織的な取組を行う。	・保護者アンケート「わが子は、楽しく学校に通っている」肯定的評価80%以上	・保護者アンケート「わが子は、楽しく学校に通っている」肯定的評価 97.3% ・毎週、全職員で児童の様子で気づいた変化や支援の必要な状況を具体的に共有し、連携を強化しながら児童が楽しく通える学校づくりを推進した。	3	3	・児童の様子を的確に把握しながら接していくことで児童一人ひとりに寄り添い、児童ができた喜びを実感できる授業をつくる。					
			継続	働き方改革を含め、一人一人が組織の一員として学校経営に参画しているという自覚をもつ。	一人一人が業務を計画的に遂行し、時間管理を行う。 学校教育目標につながる計画を提案し、実践することで「自分たちで動かす学校」とする。	・18時30分退校、1か月の時間外在校時間45時間以内の職員90% ・学校づくりにかかわろうとする意欲がある職員80%以上	・全職員が18時30分退校ができている。1か月の時間外在校時間45時間以内の職員は99.2% ・個々の職員が見通しをもち、業務を遂行できている。 ・学校づくりにかかわろうとする意欲がある職員100% ・一人一人が当事者意識をもち、働き方改革を推進しながら学校経営へ積極的に参画している。	3	3	・16時50分が勤務終了時刻であるので、自分が予定していた業務を終えたら速やかに退校する意識をより高めていく。 ・「自分の提案や実践で学校が少し変わった」という体験をすることで学校経営に参画しているという自覚を高めていく。					

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立熊野小学校

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。